

寫眞説明

壯で行く	山中峯太郎
齊本主義(上、中)	シユム
民主主義	ペータ
サルトル全集(1、2)	自由への道
第一部 分別さかり(上、下)	サルトル全集(6、7)
イネツクリの問題点	イムギリの研究
サツマイモづくり	水田裏作
マメづくりの研究	ジヤガイモづくり
これから野菜	農業朝日
近郊野菜	松原茂樹
永田農業の新技術	高橋浩之
カンランと花野菜の栽培	岩間誠造
和洋野菜の作り方	加藤要
理想農家の農業経営	近藤正
種熱病の研究	逸見武雄
農業害虫類説	尾崎重夫
蔬菜園十二ヶ日	小田鬼八
新しい日本の歴史	家永三郎
△図説世界史年表	有島巖
△文芸年鑑(27年版)	文芸家協会
生きている日本史	高木健夫
鉄道十八番	竹内順三郎
動物の子どもたち	八杉龍一
△日本貝類図鑑平瀬信太郎	
△式辞と演説	雄弁研究会
△式辞挨拶演説集	講談社
就職必携	杉田正人
家庭のあり方	今和次郎
△家庭大医典	講談社
△科学文化史年表	湯浅光朝
△言苑	新村出
△字源	箇野道明
筆記の手ほどき	片野一郎
私の人生観	池田成彬
私の経験と考え方	藤原銀次郎
百人の大音楽家	服部龍太郎
眞田幸村 第一部	尾崎士郎
青春期の女性	田制佐重
女性、恋愛、教養	堀秀彦
歌謡十八番	河竹繁俊
福引一千百題	娛樂研究会
△医学辞典	末川博

公民館圖書(7)

入蔵図書名 著作者
 △学生の百科辞典 中教出版

△近代絵画の百年 柳亮
 △科学のくふう クレイグ
 △科学の時間 "

△科学のくにへ "

金原明喜 和田伝
 ジル・プラスの冒険 佐々木邦

海底旅行 渡野十三
 広境の王者 久米元一

ゴツホ 富永次郎
 紫式部 横山青娥

ウエニスの商人 大木惇夫
 家なき娘 北條誠

氷海の冒險見 南岸一郎
 マゼラン 深沢正策

清少納言 横山青娥
 ナンセン 万次郎

池田宣政 吉田紘二郎
 母への聖歌 横山美智子

ウイリアム デル 円地文子
 圣徳太子 友岡円諦

島崎藤村 伊藤佐吉雄
 チャーチル 柴田錠三郎

牛島鶴爾 池田宣政
 一休哲師 山本和夫

ベートーベン 大庭さち子
 乃木希典 山中峯太郎

樋口一葉 持丸良雄
 ディーゼル 川端勇男

ジヤンヌ・ダーラー 柴田錠三郎
 芭蕉 山本和夫

二宮金次郎 加藤武雄
 日蓮 福田清人

豊臣秀吉 柴田錠三郎
 間宮林誠 吉田与志雄

キリスト 清利寺健
 鳴門秘帖(上、中、下) 吉川英治

科学と発明 原田三夫
 航空の歴史 中正夫

動物記(1~6) シートン
 スキー 野崎 弘江忠男

サツカーフ 堀江忠男
 テニス 藤倉五郎

幸福になる法 阿部静枝
 生きぬく生活 二瓶一次

人を覗る法 上野陽一
 己れを作る法 "

たのしみを創る生活 本多静六

五、市民の負担状況について
 本市の予算は前年改定したように総収入見込額は三〇四、四八
 二、四五三円となつておりますが、この予算額が市民の皆様の負担
 になるものと仮定して見ますと現
 在当市の人口は七二、二八〇人へ
 本年四月一日現在)となつておりますので一人当たりの負担額は年間
 二二三円となるのであります。
 が、実質的には本市予算の根幹を
 支えで見ますと二七九円の負担に
 ものでありますので、本年度にお
 ける市税収入実績(二四、五
 いたい

六、市有財産につ

(大阪新聞提供)

七、市債と一時借

入状況について

額増となつて居りますが、これは
 地方税法が一応確立したことと物
 語ると同時に、物価の騰貴による
 市民の所得が自然に增加了こと
 に起因するものと考えております。
 以上のように市民の負担額は昨年
 に比し増加致しておりますが、反
 面に述べてありますように新た
 に出来た施設等による市民の財産
 も昨年に比し一人当たり八四〇円が
 増加いたしております。一方として
 増加いたしておりますが、方針で進んで
 おるのであります。

六、市有財産につ

(大阪新聞提供)

空から眺めた

市税の起債を得て全市給水の工

程を施工して参ったのであります。

が、本年度は既に一二、〇〇〇、

には全額償還済になつておるので
 あります。

のあります。これが予算額は四、四七四、八

〇〇円の起債を得て残事業の完
 成をはかつたのであります。この

とおりであります。

予算の内容並びに執行状況は次の

とおりであります。

これが予算額は四、四七四、八

〇〇円の起債を得て残事業の完
 成をはかつたのであります。この

とおりであります。

</

昭和二十七年七月二十日

水による傳染病を防げ

昨年度発生数二千八百名

醫学が増すにつつて、赤痢、チフス等の消化器系伝染病はいよいよ勢いを得てくる。

消化器系伝染病は、一般に食物や飲料水によつて伝染するもので昭和二十六年度には水による伝染病発生は全国で二、八三名の多きが、一般に水道水といふと衛生的に水道水といふと衛生的に全なものと信頼されているが、同じ蛇口から出る水でも、維持管理が完全な上水道であればよいが、自家販賣水道（工場や事業場等で自家用又は社宅に給水しているもの）や、小部落で作つているようなものは、往々水が充分淨化されていない、塩素による滅菌も充分されないため、伝染病の流行の媒介となることがある。

それで、安心して使えるのはど

うかといふと、蛇口から水を汲み出した時に、アーテンと塩素（漂白粉）の臭のするものであれば、まず安心でこれ位入つておれば、

水の中の細菌は大体死滅してい

る。よく塩素が入つていてると茶

がましいとか、铁びんに赤さびが

多くついて困るなどといつて嘆

方があるがこれは滅菌するのが目

的で、水の安全のために我慢する

と共に進んで臭いがつくようにな

るまで塩素を入れるように、水道

課に申出て頂きたい。

市の水道課や保健所で毎月

開放井戸であれば、少くとも年に

元西証寺と称した。

一名久宝寺御坊

又は久宝寺御院

の大きさといわ

れる御堂、四足

の本尊は阿弥

陀（春日仏師

作）宗祖親鸞上

人御影は等身

の大きさとい